

パート 2 5つの訳文

Aさんの訳

南米のアマゾン地域は西ヨーロッパほどの広さがあり、八カ国にまたがっています。ブラジルには世界のどの国よりもはるかに広い面積の熱帯雨林があります。しかし、1960年代からずっと、この「遊休資産」の開発が求められ、ここは無数の多種多様な動植物の生息場所から、人が資源を搾り取る場所へと変わってしまいました。その結果、森林とそこに住む先住民の将来が、金と鉱物の採掘だけでなく伐採や牛の放牧によっても危険にさらされています。

アマゾンの奥地では、ヤノマミ族のような部族民が今でも古くから伝わる自分たちの文化の規範に従い、100人ほどの村で自給自足をしながら暮らしています。自分たちが採集する蜂蜜や森の果物やナッツ類、自分たちで獲る魚、自分たちで狩る鳥獣、自分たちで栽培するカッサバやバナナや果物などは、彼らが生きていく上で申し分のないものを与えてくれます。彼らは肉体を維持するために必要な分だけを消費し、自分たちの環境からそれ以上を求めることはしません。ポルトガル語を学んだヤノマミ族のダビ・コペナワは、森林の周辺に点在する120ほどのコミュニティを代表して、こう言います。

「わたしたちは自分たちの土地を大切に扱います。土地を酷使しないのは、土地を守る必要があるからです。自然は命、わたしたちの命です。自然はわたしたちすべてに食べ物を与えてくれます。土地がなくなれば、自然もなくなります。そして自然がなくなれば、命もなくなります。」

Bさんの訳

南アメリカのアマゾン地帯は、西ヨーロッパ程の広さに渡っており、8カ国に分かれている。ブラジルは、世界中のどの国よりも遙かに上回る広さの雨林地帯を有する。しかし、1960年代以降、この「眠れる財産」を開拓し、多種の動植物の生息地を人間の為の資源発掘の地にしようとする動きがある。その結果、森やそこに住む現地の人々の将来は脅かされるようになった。—金や鉱石の採掘にだけでなく、木々の伐採や土地の牧場利用によってまでも脅かされる。

アマゾンの森の奥深くにヤノマミ族などの部族が未だに独自の古い慣習に基づき、100人程の部族民で自給自足の生活をしている。はちみつ、果物、ナッツを集め、魚を釣り、鳥や哺乳動物を狩り、マニオカやバナナなどの果物を栽培し、生活に必要な食料を得ている。身体を維持するのに必要なだけの栄養を取り、それ以上は摂取しない。彼らを取り巻く環境から、必要以上に多くは要求しない。ポルトガル語を学んだ、ヤノマミ族のダビ・コペナワ氏は森に点在する120程の部族を代表してこう述べている。

「私たちは土地を大切にしている。土地を保護する必要があるから、乱用しない。自然は生命であり、私たちの命でもある。私たちは、みんな、土地から食料を得ている。土地がなければ、自然もない。そして、自然がなければ生命もない。」

Cさんの訳

南米、アマゾン地域は、西ヨーロッパほどの面積があり、八カ国にまたがっている。中でもブラジルは世界一広大な熱帯雨林を有している。しかし 1970 年以降、ブラジルではこの「眠れる財産」の開発が進められ、多様な種類の動植物の生息地を、人間が資源を得るための場所に変えてきた。その結果、金や鉱物の採掘や、森林伐採や牛の放牧などにより、森林とそこに住む先住民の未来が脅かされるようになってしまった。

アマゾンの森奥深くでは、現在もヤノマミのような部族民が、昔ながらの伝統を守りつつ、村民百人ほどの村で、それぞれ自立した生活を送っている。蜂蜜や森の果物、木の実を採り、魚を釣り、狩りで鳥や動物を手に入れる。また、タピオカと呼ばれるサツマイモに似た植物やバナナを育て、生きていくのに必要な分だけの食物を手に入れる生活を送っている。肉体を維持するために必要な分だけを消費し、決してそれ以上は消費しない。環境から余分な物を何も奪わないのだ。ヤノマミ族のダヴィ・コペナワはポルトガル語が話せるが、森林に点在する百二十程の共同体を代表してこう話している。

「私たちは自分たちの土地を大切にします。土地を守らなければならないのです。だから使いすぎないようにしています。自然は、私たち自身の命です。すべての人間に食物を与えてくれます。大地がなければ自然も存在しないし、自然なしには命も存在しないのです。」

Dさんの訳

南アメリカのアマゾン地域は広がって、8つの国々に分かれ、西ヨーロッパサイズの地域となった。ブラジルは、世界のあらゆる国の熱帯雨林の中でも、断然最大の部分を持っている。しかし、1960 年代から、それは、様々な種類の植物や動物の種の環境を、人間が資源を取る場所に変えながら、この「休眠中の資産」を開発しようと努めてきた。その結果、金と鉱物の採掘のみならず、伐採搬出と畜牛飼育によって、森林の将来とここに住む土着民のそれも威嚇されている。

アマゾンの森は深いが、ヤノマミのような部族民が100人前後で、自給自足の村々の中で、古く確立された文化的規約によって生活をしている。彼らが集めるハニーとフルーツとナッツ、彼らが捕まえる魚、彼らが狩猟する鳥や哺乳動物、彼らが育てるマニオクとバナナと果物が、彼らに完璧に適切な生活を提供する。彼らは物質的生計に必要な量を消費し、それ以上は消費しない。彼らは環境から他の物を要求していない。ダヴィ・コペナワはスペイン語を勉強したヤノマニの一人で、森のまわりに散らばる120ほどの部族民のために話をする。

「私たちは私たちの土地の世話をしている。私たちはそれを保存しなくてはならないから、あまり使わないのだ。自然は命、私たちの命。それが人々に、私たちみんなに食べ物を与える。土地なしでは、自然もない。そして自然なしには、命もない。」

Eさんの訳

南アメリカに広がるアマゾン地帯は西ヨーロッパ程の面積を有し、8カ国の領土にまたがっています。ブラジルは世界各国の中でもずば抜けた広さの多雨林を所有しています。しかし、1960年代以来ずっと、この「遊休資産」の開発を追究し続け、ありとあらゆる植物や動物の種の生息地を、そこから人間が資源を搾り取る場所へと変えてしまいました。その結果、多雨林の将来、そしてまたこの地に生きる原住民の将来もが脅威にさらされています。金鉱等の鉱産資源の採掘だけでなく、森林伐採や牛の放牧もその要因なのです。

アマゾンの森林の奥深くには、今もなおヤノマミ族のような部族民が100人程の部落の中で自給自足をしながら、古い伝統文化の慣例に従って生きています。はちみつや森に実る果実や木の実を集め、魚を採り、鳥や動物を捕え、そしてマニオカ、バナナのような果物を育てることで、彼らは十分満足できる生計を得ているのです。自分達の肉体の維持に必要な分だけを摂取し、それ以上は取らないのです。また、彼らの生活環境外から多くを求めることもありません。Davi Kopenawaさんはポルトガル語を習得したヤノマミ族の一人であり、森林に点在するおよそ120の部落社会を代表する語り手です。

「私達は自分達の土地を大事にしています。私達に必要なのはこの土地を保護することです。だからこそ私達は使い過ぎをしないのです。自然は命です。私達の命です。自然の恩恵により私達人間は食糧を得られるのです。すべての人間がそれに与っています。土地がなければ自然は存在しません。そして、自然がなければ命も存在しないのです。」